

2013年度 第2回ロードレース委員会 議事録

ダイジェスト版

開催月日： 2013年11月14日(木) 午前10時30分～午後5時00分
開催場所： 東京・中央区 コンワビル地下1階 コンワホール

I. 2013年全日本選手権・地方選手権 開催状況報告

<報告>

1. 全日本選手権

- ・全9戦のうち3戦が2&4大会、アジア併催とクラスごとの開催数が異なるが、参加台数は、JSB1000は15%増、J-GP2は21%増、J-GP3は2%減、ST600は4%減。総台数比較は5%増。ST600クラスの減少が目立つ。
- ・観客動員数172,840名で、1大会19,204名で、前年比3%増。

II. 2013年全日本選手権シリーズランキング報告とワイルドカード選抜基準 <決定事項>

1. 2013年度全日本選手権シリーズランキング表が提出され、確認、承認された。

2. 2014 ワイルドカードの募集について

1) 2014 MotoGP 日本グランプリもてぎ大会 moto2、moto3 クラス

ワイルドカードの参加枠、選抜基準は、各クラスとも各国の協会から申請できること、参加者の決定も GP コミッションに変更されたため、来年の選抜基準を以下のとおりとする。

① 公募内容：参加条件(年齢、参戦費用)およびマシンの準備することのできるチーム、選手からの公募制とし、FIMに申請を行う。

② 複数の申請の場合・・・**中央スポーツ委員会にて下記イ)のみに変更決議された。**
~~ア) 公募してきた選手をすべてFIMに申請する。~~

イ) FIMから申請者の優先順位を要望された場合は、以下の基準を適用する。

- ・2014年全日本選手権当該クラス(第4戦 SUGO大会時点)でシリーズランキングの成績上位者順

m o t o 2クラスは、J-GP2クラス成績順

m o t o 3クラスは、J-GP3クラス成績順

2) アジアロードレース選手権 SS600 クラス

ワイルドカード申請は、ロードレース国際ライセンス所持者のフリーエントリーとする。
各大会 募集数の4～6名を超えた場合は、下記の優先順位を適用する。

・ 優先順位

ア) 2014全日本選手権 ST600クラス 第4戦 SUGO大会時点でのランキング順

イ) その他(上記にて該当者のなき場合は別途審議を行う。)

III. 2014年 主要競技会ロードレースカレンダー

<決定事項>

1. 世界選手権

世界耐久選手権 8時間耐久

7月27日

鈴鹿サーキット

M o t o G P

10月12日

ツインリンクもてぎ

2. 国際選手権

FIM アジアロードレース選手権

9月7日

鈴鹿サーキット

FIM アジアロードレース選手権

オートポリスは調整中

3. 全日本選手権

	日程	大会	開催クラス				備考
			JSB	JGP2	ST600	J-GP3	
第1戦	4月13日	鈴鹿2&4	○				
第2戦	4月27日	オートポリス	○	○	◎	○	ST600 2レース
第3戦	5月25日	もてぎ	○	○	○	◎	J-GP3 2レース
第4戦	6月29日	SUGO	○	○	○	○	JSB セミ耐久
第5戦	8月24日	もてぎ2&4		○			
第6戦	9月14日	オートポリス2&4	○				
第7戦	9月28日	岡山国際	○	○	○	○	
第8戦	11月2日	MFJ-GP鈴鹿	◎	○	○	○	JSBのみ2レース
全9戦		クラス開催数	7	6	6	6	
		大会数	8	6	5	5	

1) 日程に関する補足

ロードレース委員会後の変更点(上記)を**赤文字**で表記

・全日本 第7戦 第8戦、MOTOGP 日本GP

2) クラスごとの開催数確保の対策

① 1大会2レース開催

筑波大会休止と2&4大会時のクラス変更にもなつてクラスごとの開催数を従来とおりに維持するため、1大会において2回決勝レースを行うことが決定され、以下が確認された。

対象大会 第2戦 オートポリス ST600、第3戦 もてぎ J-GP3

ア. 決勝は、土曜日、日曜日の両日決勝を行う。

イ. 予選は1回とし、決勝のスターティンググリッドは2レースとも同一グリッドとする。

ウ. 獲得ポイントはレースごとに付与する。

エ. エントリーフィーは、2大会分とし、賞金は1レースあたり規定の75%とする。

プロモーション委員長より補足

筑波大会の休止を懸念している。動員数減や関東のファン減少など。

本来は、他のサーキットでの1戦追加や筑波大会の復活などを考えていただきたいが、2014年は、開催数確保のため暫定処置として2レース開催を承認する。

② MFJGPの参加資格の変更について

以下の部分を改定し、参加資格を緩和することになった。

・全てのクラスは、「エントリー数の上限は、予選1組の最多予選出走台数」のもとに、「2014年の年間エントリー参戦者(ノーポイント者)」の参加を認めることになった。

3) その他 エントリー料金の消費税対応について

来年の4月からの消費増税引き上げに対し、以下方針が決定した。

- ・現在、内税とされているエントリー料金を、「本体と消費税」に切り分けたうえで、来年以降は、エントリー料金（本体料金）に消費税を加算する形に改め徴収することが確認された。（端数は切り捨てとする）

IV. 全日本選手権について

1. 競技運営について

・検討事項：

レース中の降雨によりライダーがレースの中立化のアピールを行った場合の運営側の対応について

当該レースの上位トップ3名までが何等かのサインを出した際に、セーフティーカー導入または赤旗の提示などの対応をする場合のガイドラインについて今後検討を行う。

- ・関連して、決勝朝のセーフティーカー導入練習走行については2, 3台しか参加しておらず、参加促進する方法についてセミナーで検討する。

2. 2014 全日本向けの提案と審議

1) J-GP3 クラスのクラス構成と車両規則

前回の委員会の審議の通り、2014年からの新規則が導入されることが報告された。

内容： **技術仕様**

- ・公認車両のエンジンから許可された内容のみ変更改造可能
- ・ECU 回転規制を最大 13500rpm に変更
- ・Tカー禁止

クラス構成運用

- ・J-GP3 全日本選手権~地方選手権まで同一クラス運営
- ・シートトップゼッケンの採用

① シリンダーヘッドの改造について、

Q : 図面の寸法内の範囲での研磨の範囲とは？

A : 図面の配布を含め、技術委員会にて審議後に具体的な数値を公表する。
施設へのサンプルパーツの配布も行う。

② ECU 公差

Q : ECU の回転数の公差

ECU の公差についても技術委員会にて審議後公示する

回転数に関する抗議に対しては、2段階で検査方法を考えている。

- ・第1段階はデータロガーのデータ開示によるチェック
- ・第2段階はECUの検査機関での調査。(代替ECUに交換)

ともに、「審査委員会の求めに応じて、データの公示、交換には必ず応じなければならない。」と規則変更を行う。

2) ST600 クラスに関して

前回から以下のコスト削減を検討してきた内容について結論および審議された。

- コスト削減を目的として
 - ① エンジンメンテナンス制限について ・・・制限できず。
 - ② Tカーの禁止 ・・・採用
 - ③ 事前テストの制限 ・・・採用せず
 - ④ タイヤ ・・・見直し

タイヤの見直しについては、

7月のロードレース委員会議事録公示後、地方選手権エントラントや関係者より一般公道タイヤを使用することへの懸念が多くよせられ、全日本エントラントは8月のSUGO大会ARTミーティングで意見を集約したが反対が多く、10月3日に開催した「代表者会議」にて新案が提出され、審議した。

<新案>

- ① 2014年はタイヤ規則変更なし (現行のST公認タイヤ制度継続)
- ② 2015年から新STタイヤ導入 1セット(予選~決勝)
 - ア) ワンメーカータイヤ制度の導入
 - イ) ワンメーカータイヤ入札における入札委員会の制定と実施
 - ・ 入札公示時期 : 2013年末までに行う
 - ・ 決定と公示 : 2014年シーズン開始前にタイヤ銘柄のみ
 - ウ) タイヤの仕様
 - ・ タイヤの仕様は、入札メーカーが決め使用タイヤを決める
 - ・ 「公道用。DOT表示」義務を設けない
 - ・ 2014規則からサイズ規制は導入する
すでに公認した当該タイヤは猶予期間を設ける
 - エ) ワンメーカーの期間
 - 全日本選手権 ・・・2015・2016・2017 3年間
 - 地方選手権 ・・・2016・2017 2年間
 - オ) 地方選手権
2016年からワンメーカー導入(全日本入札と同メーカー)

<決定>

提案内容は、ロードレース委員会にて承認された。

入札委員会のメンバーはスポーツ委員会を選任する。

3) JSB1000 クラス新技術とTカーについて

前回の委員会の審議の通り、2014年からの新規則が導入されることが報告された。

新規則採用

- ・ フレームヘッドパイプのジオメトリ変更 ピボットポジションの変更
- ・ オイルパンの変更

スロットルバイワイヤーの採用については、現在EWCクラスの規則適用が未決定のため、現時点での導入は見送りとする。ただし、来年のシーズン中に採用の場合は、国内もそれに追随する予定が報告された。

Tカーについて

JSBクラスのTカーは継続することが確認された。

4) 全日本の運用について

同着確認（フィニッシュラインのビデオ作動）について

① フィニッシュライン位置を必ず公式通知にイラスト入りで記載する。

② 着順の判定確認手順は以下のとおり行う。

ア) 計時オフィシャルの目視 イ) トランスポンダー

ウ) 光電管 オ) 映像確認

③ JSB1000クラスの予選方式について

予選が複数組で時間的にノックアウト予選実施が困難な場合は、計時予選に変更する場合は、公式通知に記載を行うこととなった。

また、国内競技規則書には、「2組予選の場合は、計時予選に変更される場合がある。」と明記する。

④ WET宣言化の決勝レースの周回数の減算について

今年から、WET宣言時に周回数減算して運用しているが、ドライ走行とタイムに変化を生じないレベルのWETの場合、サイティングラップ30分前を目安に、周回数の減算をおこなうのか決定しアナウンスをおこなう。

⑤ その他

・開幕戦の特別スポーツ走行について

来年度は、第1戦が、鈴鹿2&4大会のJSBクラスのみとなるため、特別スポーツは第2戦のオートポリス大会の4月24日木曜日に実施する。

・地方選手権の国際ライダーのゼッケンについて

地方選手権のインタークラスゼッケンカラーについては、全日本規則を適用することになった。

・特別昇格申請「ロードジュニア → ロード国内昇格者の国際ライセンス(2段階昇格)」特別昇格審査の扱い

特別昇格審査に関しては、本委員会の方針とおり、地方選手権において、ジュニア、国内と段階的にレース経験を積むことによる「マナー、スキル、競技規則の理解度を高め」国際ライセンスへの昇格の育成方針が確認された。

V. 全日本の音量規定値とエアバッグについて

1. 全日本ロードレースの音量について

2&4レースにおいて4輪との比較による迫力差があるとの意見から、もてぎ2&4のJ-GP2クラスにおいてmoto2音量規定値をテストした結果、サーキットでの周辺環境および自治体、反対勢力の攻撃材料を与える可能性もあり、音量規制緩和は行わないことが決定した。

2. エアバック式プロテクションの義務化について

FIM でも大学の研究室に研究依頼しており、来年 2 月に FIM メディカル委員会で装備に関する報告が行われることが報告された。

MFJ では、女性、子供でもけがを負わないで楽しめるスポーツとしてエアバック義務付けに向けた各施設のメディカルの意見および一般公道でのデータなどを参考に、製造メーカーなどの協力も得ながら進めていくことが確認された。

将来的には、エアバッグの義務化することが委員会決議された。

VI. FIM CCR 報告と国内競技規則について

先般開催された FIM CCR 会議で決定した規則変更事項について報告された。

変更点は国内でも 2014 年より適用することとされた。

- 1) スタートディレイドの規則変更 ・・・赤旗振動とレッドライトへの変更
- 2) レースの中立化 ・・・黄旗+SCボード
 ・・・セフティーカーの回転灯変更 (オレンジ灯)
- 3) フラッグの振動 ・・・すべてのフラッグが振動提示に変更

VII. その他

- ・観客賠償保険掛金の値上げについて、2015 年から改定することが事務局より報告された。

以上